

<b>横浜市新型コロナウイルス対策本部会議 議事要旨</b>	
<b>日 時</b>	令和2年7月16日(木) 10時00分～11時00分
<b>開催場所</b>	市庁舎10階 危機管理センター本部会議室
<b>出席者</b>	<p>【正副本部長】林市長、平原副市長、小林副市長、城副市長、林副市長、危機管理監</p> <p>【本部員：局・統括本部】温暖化対策統括本部長、政策局長、総務局長、財政局長、国際局国際政策部担当部長、市民局長、文化観光局横浜魅力づくり室長、経済局長、こども青少年局長、健康福祉局長、医療局長、医療局病院経営本部長、環境創造局長、資源循環局副局長、建築局副局長、都市整備局長、道路局長、港湾局長、消防局長、会計室長、水道局長、交通局長、教育長、選挙管理委員会事務局長、人事委員会事務局長、監査事務局長、議会局長</p> <p>【区】鶴見区長、南区長、瀬谷区副区長</p> <p>【本部員：その他】危機管理室長、政策局政策調整担当理事、保健所長</p>
<b>開催形態</b>	マスコミ公開
<b>議 事</b>	<p><b>開 会</b></p> <p><b>1 市内の状況について（報告）</b></p> <p>(1) 感染発生等の状況</p> <p>資料1（健康福祉局担当部分）に沿って説明【健康福祉局長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月以降の陽性者数の割合は、20歳代、30歳代が増加している。</li> </ul> <p>資料1（医療局部分）に沿って説明【医療局長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～5月末まで重傷者の割合が多かったが、現在は、減少傾向にある。</li> <li>・医療施設や宿泊施設の受入れ数については、現時点では余裕がある状況</li> <li>・軽症者が増加する場合は、宿泊施設について神奈川県と調整する必要がある。</li> </ul> <p>(2) 市内経済の状況</p> <p>資料2に沿って説明【経済局長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食店等においては、いわゆる「密」を避けるため、様々な工夫を実施しているとのことで、心から感謝したい。【林本部長】</li> <li>・中小企業を対象とした「新しい生活様式対応支援事業補助金制度」（7月14日記者発表）を活用していただけるように、積極的に広報すること。【林本部長】</li> </ul> <p>(3) 市内観光の状況</p> <p>資料3に沿って説明【文化観光局横浜魅力づくり室長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明日から、「横浜トリエンナーレ」を開催予定だが、感染防止対策を徹底すること。 【林本部長】</li> </ul> <p><b>2 感染第2波への対応状況について</b></p> <p>(1) 感染防止策の強化</p> <p>感染防止策の概要について説明【林本部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2波への備えとして、立入検査等のクラスター対策を強化するため、医師と保健師等による疫学調査チーム、Y-AEIT（ワイ エイト）を6月に設置した。</li> <li>・接待を伴う飲食店の従業員を対象とした検査を積極的に進め、感染拡大防止策を強化する。</li> <li>・「接待を伴う飲食店」（神奈川区、西区、中区）の従業員に対し、PCR検査を行うものである。</li> </ul> <p>資料4に沿って説明【感染症・医療調整本部長（健康福祉局長）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接待を伴う飲食店で感染拡大が見られるなか、広く早く検査を実施できるように感染防止策を強化する。【健康福祉局長】</li> </ul>

	<p>(2) 市民利用施設等における感染対策 資料5に沿って説明【本部運営調整チーム長（危機管理室長）】</p> <p>(3) その他（情報共有）</p> <p><b>【鶴見区長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口では、マイナンバーカードの交付が増えているため予約制としているが、1か月先まで予約できない状況である。</li> <li>・「地域の見守り活動」「自治会町内会が主催する行事」等ができない状況である。</li> <li>・コロナ禍における災害時の避難所の在り方について検討しているところである。</li> </ul> <p><b>【南区長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今月に入り、新型コロナウイルスに関連する相談や対応が増えている。</li> <li>・定額特別給付金の相談件数は減少傾向にあり、大きなトラブルなく順調に推移している。</li> <li>・区民利用施設を利用される区民の皆様には、施設が実施している感染予防対策に御理解・御協力をいただき、大変感謝している。</li> </ul> <p><b>【瀬谷区副区長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定額特別給付金に関する相談は、最近では申請書の書き方よりも、振込時期や申請の不備通知に関するものが多い。</li> <li>・自治会町内会の会議は、再開されはじめているが、主催行事等が開催できない状況である。背景に区民の不安感もある。区としても共有しながら、できる支援をしていきたい。</li> </ul> <p><b>3 本部長指示</b> 別紙のとおり</p> <p>閉 会</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p><b>1 資 料</b></p> <p>資料1：市内の状況について（感染発生等の状況）【健康福祉局・健康福祉局】</p> <p>資料2：市内の状況について（市内経済の状況）【経済局】</p> <p>資料3：市内の状況について（市内観光の状況）【文化観光局】</p> <p>資料4：感染防止策の強化【感染症・医療調整本部】</p> <p>資料5：市民利用施設等における感染対策【本部運営調整チーム】</p> <p><b>2 特記事項</b> なし</p>

現在、九州地方を中心に、西日本や中部地域に甚大な被害をもたらしている豪雨災害について、被災され、大変な思いをされている皆様にお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々に心からお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

また、災害救助や復旧、被災者支援にご尽力されている皆様に、敬意と感謝を表したいと思っております。

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が、5月25日に、全国的に解除されてから、2か月近くが経過しました。

横浜市は、2回にわたる補正予算を組み、「感染症対策の強化」と「経済再生の実現」に向けた対策を進めています。医療提供体制については、引き続き安定的に維持しています。

東京都では、13日までの1週間の平均で、新規陽性患者数が前の週の約1.5倍となり、感染経路不明の陽性患者も、前の週の2倍近くに増えています。

こうした状況を踏まえ、東京都は、感染状況についての警戒レベルを、4段階で最も深刻な「感染が拡大している」に引き上げました。都内に通勤・通学される方は一日当たり約43万人と、往来が非常に多いため、東京の感染状況は、引き続き注視していく必要があります。

横浜市では、緊急事態宣言が解除された5月下旬から1か月ほどは、新規陽性患者数が1日5名以下にとどまり、ゼロの日も10日以上あるなど、感染を抑えられていました。

この数週間は、新規陽性患者数がやや増加するなど、これまでと違った傾向も見られているものの、現在、中等症以上の方は11名と、比較的少ない状況であり、病床にも十分な余裕があります。

一方で、市内でも、接待を伴う飲食店でクラスターが発生しています。そのため、横浜市は、感染防止策を強化するため、医師と保健師等による疫学調査チーム「Y-AEIT(ワイ エイト)」を設置し、神奈川区、西区、中区の店舗を対象に、PCR検査を実施することとしました。

市民の皆様が安心して外出いただき、社会経済活動を回復させていくための対策です。クラスターが発生しやすい、これらの飲食店を営業されている皆様におかれましては、是非ともご協力をお願い申し上げます。

現在、横浜市の市民利用施設は、3密の回避やマスクの着用、消毒、職員の健康管理など、感染対策を徹底した上で、原則開館しています。このたび、イベント等の制限の段階的緩和に向けた、国からの通知を受け、改めてその徹底を指示します。

また、既に多くの施設で実施していますが、ご利用者の体調確認や、陽性患者さんとの濃厚接触の疑いが生じた場合に連絡がつくようにするための、お名前・連絡先の提供などをお願いを、原則として全ての施設で行うこととします。

施設ご利用者様には、ご理解、ご協力くださるようお願い申し上げます。

施設を所管する本部員の皆さんは、市民の皆様へ、安心してご利用いただけるよう、万全の対策をとってください。

九州を中心に西日本や中部地域で発生している豪雨災害では、コロナ禍における避難が大きな課題となっています。地震などの災害も、いつ起こるか分かりません。

市民の皆様へ、災害時にためらうことなく避難していただくためには、避難所内での感染防止対策を徹底することが必要です。避難所の開設数も、さらに増やしていく必要があります。

横浜市は、既に、感染防止対策など、避難所運営の留意点をまとめた冊子を作成し、地域防災拠点の運営に関わる皆様にお配りしました。

本部員の皆さんは、今一度、緊張感を持って、災害対策を進めてください。

新型コロナウイルス感染症への対応は、長期化が予想されます。今後も医療崩壊が起きないように、国や県、医療機関の皆様と連携し、感染の再拡大に十分警戒しつつも、社会経済活動を早期に回復させ、コロナ前に戻していくことが基本だと思っています。

観光事業者の皆様にも、感染防止策を確実に行っていただき、旅行者の皆様には自らの体調管理をお願いすることで、少しずつでも経済活動の回復につなげていただきたいと思います。

横浜市は、一昨日、東京都などの首都圏の自治体・企業・団体等と連携し、国際競争力の強化やスター

トアップの成長支援、そして横浜経済の持続的発展を目指す「グローバル拠点都市」に、国から選定されました。

横浜市は、万全の感染症対策を講じると同時に、こうした、将来の成長を見据えた施策にもしっかりと取り組んでいきます。

横浜の未来のために、しっかりとコロナ対策を行いながら、ひるむことなく挑戦していきましょう。

私からは、以上です。